

遠州の小京都まちづくり 基本構想

平成27年3月 遠州の小京都まちづくり推進会議

森川橋のたもとにある「森町之賦」



継承する 発信する もてなす

目次

はじめに	1
1 小京都とは	1
1-1 小京都について	1
1-2 森町と小京都の関係	2
2 「遠州の小京都」とは… ～ 森町が描く小京都像 ～	4
2-1 「遠州の小京都」とは(『現代版：森町之賦』)	4
2-2 『遠州の小京都・森町』のまちづくりの目標	4
3 「遠州の小京都」のまちづくりの推進に向けて	5
3-1 まちづくりの基本方針	5
3-2 まちづくりの推進に向けたねらい・方向	6
3-3 まちづくりの提案	7

はじめに

森町は、三方を緑の山々に囲まれ、清流太田川が町の中央を流れる風光明媚な地で、「遠州の小京都^{しょうきょうと}」として親しまれています。平成24年4月新東名高速道路の開通と森掛川IC開設を契機に、また、平成26年3月の新東名高速道路・遠州森町スマートIC開通への期待から、森町を全国へ発信するため、平成24年11月に全国京都会議に加盟しました。

このようななか、「遠州の小京都」について理解を深めるとともに、「遠州の小京都」にふさわしいまちづくりを進め、「遠州の小京都・森町」を広くPRし、町の活性化を図るため、平成25年度に「遠州の小京都まちづくり推進会議」が設置されました。

本会議及び作業部会では、「遠州の小京都・森町」をその由縁から改めて整理し、「遠州の小京都」にふさわしいまちづくりに必要なことなどについて、約2年にわたり検討を重ねてきました。本誌は、来年度（平成27年度）に合併60周年を迎えることを契機に、検討の成果を「遠州の小京都まちづくり基本構想」として、とりまとめたものです。

今後は、この基本構想をもとに、「遠州の小京都・森町」のまちづくりを、町民みんなで取り組んでいきましょう。

平成27年3月

遠州の小京都まちづくり推進会議

1 小京都とは…

1-1 小京都について

「小京都」とは、古い町並みや風情が京都に似ていることから、各地で名づけられたまちの愛称であり、室町時代以降、各地の大名が京都を模倣したまちづくり（都うつし）をしたのが、「小京都」の起源といわれています。現在、狭義では、「全国京都会議」に加盟する市町のことをいいます。

「全国京都会議」は、1985（昭和60）年に、京都市をはじめとする26市町により結成され、「小京都と京都ゆかりのまち」のPRや文化の掘り起こし策などの協議をしています。1988（昭和63）年の第4回総会において、全国京都会議への加盟基準が定められ、その1つ以上に合致していれば、総会で承認されます。

森町は、2012（平成24）年11月に加盟し、49の加盟地域（平成26年1月現在）の中でも、全ての加盟基準に合致する「小京都」を代表するまちの一つです。

全国京都会議への加盟基準

- 1 京都に似た自然と景観
- 2 京都との歴史的なつながり
- 3 伝統的な産業と芸能があること

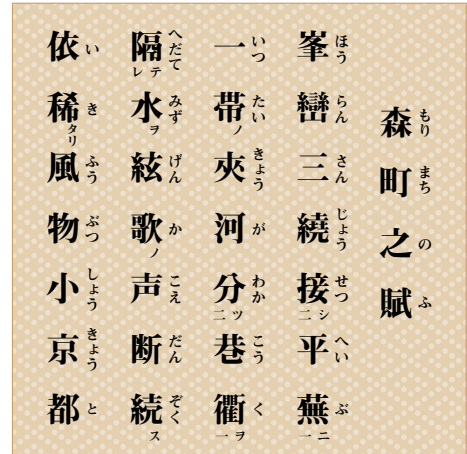
1-2 森町と小京都の関係

(1) 「遠州の小京都」の由縁 ～ 森町之賦～

日本の美しい風景を世界に知らしめた地理学者志賀重昂氏（1863～1927年 | 愛知県岡崎市出身）は、大正12年に森町を訪れ、この地の風景の美しさに心を打たれ、「森町之賦」（森町を称える詩）を詠みました。

「三方を山々に囲まれ、南部一帯に平野が広がっている。帯のように太田川が流れ、左右ににぎやかな町並みがある。三味線や太鼓のお囃子や賑やかな唄が川の流を隔てて聞こえてきたり消えたりしている。その様はどこにでもある風情ではない、まさに『小京都』である。」というもので、森町が「遠州の小京都」と呼ばれる由縁の詩として伝えられています。

書：杭迫柏樹
（森町出身）



(2) 遠江国と森町 ～ 都うつしと京都の伝統文化の継承～

古来、京都から近い琵琶湖を「近江」、これに対して、遠くにある浜名湖などを「遠江」と区別したことから、遠江の国名が生まれました。遠州平野の中央を天竜川が流れ、磐田原の先端に（磐田市）に国府が置かれました。国府の真北に光明山が創祀され、これを東西・左右に分ける形で「春埜山」、「秋葉山」がそびえ、太田川の要、森町に「一宮」が、国府に「二宮」が、原野谷川のたもと（袋井市）に「三宮」が祀られました。特に、太田川流域は、都と同じように条里を整えた地域づくりが古代から行われ、自然の恵みの中に豊かな生活空間を形作ってきました。



明治初年「遠江風土歌」

森町は、遠江国一宮を中心に、多くの由緒ある神社・寺院が置かれています。一宮の中心本宮山を頂にしてその裾野に勅使の御座所や蓮華寺、天宮神社などが造られ、太田川を京都の鴨川に見立て、賀茂神社や山名神社が祀られています。

一方、森の町（森市場）は、山の幸・海の幸・里の幸の交易の場として古より繁盛し、京都の芸能も流入され、都の文化がこの地域に根付いています。小國・天宮両社に伝わる十二段舞楽は、仏教とともに大陸から都を通じ遠江国に伝えられ、千年前の姿をつないでいます。山名神社天王祭舞楽は、京都祇園祭の舞様を伝える貴重な芸能で、このほか「森のまつり」など多くの伝統芸能を残しています。森町は「遠州の小京都」としての要素を数多く残し、京都に似た地形の中に数多くの歴史と文化を継承しており、今も脈々とその伝統を受け継いでいます。

(3) 全国京都会議への加盟条件と森町の資源

「全国京都会議」の加盟基準を基に、森町の資源と京都との関係性を整理すると、以下のようものが挙げられます。

<p>京都に似た自然や景観</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○三方を山々で囲まれ、中央を太田川が流れている ○町の中心には四条、五条のまちと同じ、森市場（森の町並み）がある ○比叡山と同じように太田川水源の山を背後に位置し、京都と同じように賀茂神社など寺社が配置されている ○桜、花しょうぶ、あじさい、ききょう、はぎ、紅葉などの花めぐり 	<p>太田川</p>    
<p>京都との歴史的なつながり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○遠州森町の舞楽 <ul style="list-style-type: none"> ●小國神社・天宮神社の舞楽は、左舞・右舞の一对をなし、都の文化を受け継いでいる ●山名神社の舞は、京都・祇園祭の流れをくみ、京都の祇園祭で途絶えてしまった貴重な芸能を伝えている 	   
<p>伝統的な産業と芸能があること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○お茶 ○森山焼 ○梅衣などの和菓子 ○治郎柿などの伝統的な農産物 ○遠州森町の3つの舞楽 ○森のまつり（お囃子を練習する笛の音は、今も「森町之賦」を思い起こす情景である） 	<p>森の茶・和菓子</p>  <p>森山焼</p>  

2 「遠州の小京都」とは…

～ 森町が描く小京都像 ～

2-1 「遠州の小京都」とは（『現代版：森町之賦』）

「遠州の小京都」たる由縁は、近代の森町の情景を詠んだ「森町之賦」です。

この「森町之賦」になぞらえて、町民はもちろん、森町を訪れる人々などすべての人が思い浮かべる『遠州の小京都・森町』のイメージを『現代版：森町之賦』としてあらわしました。

現代版：森町之賦

三方を自然豊かな山々に囲まれ、清らかな太田川はさらさらと流れ、
蔵の残る町並みはどこか懐かしい。

由緒あるお宮やお寺も多く、古くから伝承されてきた舞楽やまつりは、
くらしの中に息づいている。

森山焼、おいしい和菓子と森の茶、豊かな自然と農の恵みを楽しむ。
ゆったり和やかな雰囲気でおもてなし。

これこそが、『遠州の小京都・森町』である。



2-2 『遠州の小京都・森町』のまちづくりの目標

まち・人・ものに息づく文化・伝統を育み

みんなの「絆」でもてなす まちづくり

京都にも通ずる、森のまち・人・ものに息づいている文化・伝統を、次代にしっかりと
守り伝えます。

そして、「遠州の小京都」としての由縁を大切に育んでいきます。

豊かな自然環境のなか、森の茶をはじめ、治郎柿やとうもろこしなどの豊かな農の恵み、
和菓子、森山焼などを活かして、森のまち・人・もの、みんなの「絆」で、おもてなしをする
まちづくりを展開します。

3 「遠州の小京都」のまちづくりの推進に向けて

3-1 まちづくりの基本方針

『遠州の小京都・森町』の「まちづくりの目標」の実現に向けて、まちづくりの基本的な考え方を次のとおり整理しました。

みんなで

『遠州の小京都・森町』を

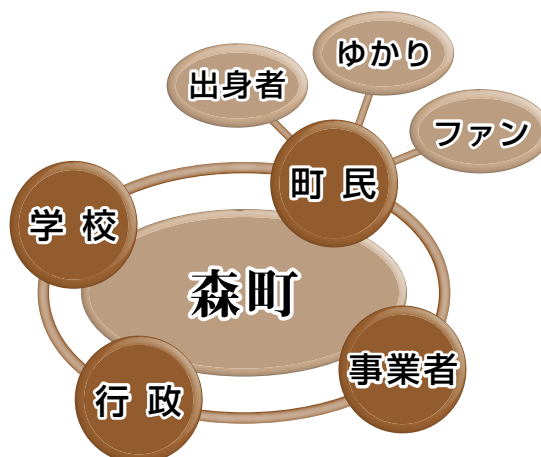
◆ 継承する ◆

◆ 発信する ◆

◆ もてなす ◆

※「みんな」とは…

森町にかかわるすべての人たちのことであり、町民(出身者、森町ゆかりの人、森町のファンを含む)、学校、行政、事業者等のことをいう。



3-2 まちづくりの推進に向けたねらい・方向

「まちづくりの基本方針」に沿って、推進に向けた「ねらい」と「取り組みの方向」を明らかにしました。

みんなで『遠州の小京都・森町』を継承する

ねらい	「遠州の小京都・森町」への理解を深め、歴史的な価値の保全や伝統文化を守り伝えるとともに、歴史文化を活かして魅力を高める。
取り組みの方向	<ul style="list-style-type: none"> ● 「遠州の小京都」について学ぶ ● 「遠州の小京都」を意識した啓発活動の推進（教育など） ● 舞楽やまつり文化の伝承 ● 伝統的産業の継承

みんなで『遠州の小京都・森町』を発信する

ねらい	「遠州の小京都・森町」の知名度と集客を高めるため、その魅力を発信する。
取り組みの方向	<ul style="list-style-type: none"> ● 「遠州の小京都」のPR ● 「遠州の小京都」にまつわる観光コースや体験プログラムの構築

みんなが『遠州の小京都・森町』でもてなす

ねらい	来訪者が何度も訪れたいくなる「遠州の小京都・森町」にしていくため、森のまち・人・ものを活かしておもてなしをする。
取り組みの方向	<ul style="list-style-type: none"> ● 「遠州の小京都」を感じられる町並みや景観の保全・整備・活用 ● 「遠州の小京都」ゆかりの地の整備 ● 「遠州の小京都」のおもてなし体制の充実 ● 「遠州の小京都」を意識した商品でおもてなし

3-3 まちづくりの提案

「まちづくりの目標」の実現に向けて、「まちづくりの基本方針」のもと、それぞれの「取り組みの方向」に沿った「具体的な方法・手段」を提案します。

◆ みんなで『遠州の小京都・森町』を継承するために…

取り組みの方向	具体的な方法・手段の提案
「遠州の小京都」を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ● 「遠州の小京都・森町」の歴史・歩み・伝統文化の意味などを、こどもから大人までわかりやすく学べるパンフレット・読本づくり ● 「遠州の小京都・森町」のインパクトやイメージを具体的に伝えるイベントの実施（小京都三十六景の募集・選定、小京都写真展、森町之賦書道展、遠州の小京都検定、遠州の小京都かるたの制作・大会の開催など）
「遠州の小京都」を意識した啓発活動（教育など）	<ul style="list-style-type: none"> ● 「遠州の小京都」の価値や資源を認識・発掘するための調査等の実施 ● 「遠州の小京都」の伝統文化を伝承するための仕組みづくり・人材づくり（森町の歴史や言い伝え、舞楽やまつり文化などを学ぶ授業や伝承教室の実施など）
舞楽やまつり文化の伝承	
伝統的産業の継承	

◆ みんなで『遠州の小京都・森町』を発信するために…

取り組みの方向	具体的な方法・手段の提案
「遠州の小京都」のPR	<ul style="list-style-type: none"> ● 「遠州の小京都・森町」を観光の視点で楽しめる旅本づくり ● 「遠州の小京都・森町」のPRポスターの制作 ● TV・雑誌・近隣市の情報誌等での「遠州の小京都・森町」特集など、マスメディアを活用したPRの実施 ● 「遠州の小京都・森町」を紹介するウェブサイトの開設、SNSの活用 ● 「遠州の小京都・森町」にまつわるイベントの開催（森のまつりや舞楽に関する展示・披露など） ● 「全国京都会議」を通じたPR強化と加盟都市との連携・交流の推進 ● 「遠州の小京都・森町ブランド」・「ロゴマーク」の確立（「遠州の小京都・森町百選」などブランド認定制度とPRするロゴマークの制作） ● 「遠州の小京都・森町」のファンづくり（ファンクラブの設置）
「遠州の小京都」にまつわる観光コースや体験プログラムの構築	<ul style="list-style-type: none"> ● 「遠州の小京都・森町」を感じる各種観光コースの設定（四季の花めぐり、由緒ある神社仏閣巡り、町並みを観て歩くなどのコース） ● 「遠州の小京都・森町」を体験する観光プログラムの構築（森山焼の窯元見学・体験、森山焼でいただくお茶とお菓子（お茶会）、豊かな農の恵みを食すなどの体験プログラム）

◆ みんなが『遠州の小京都・森町』でもてなすために…

取り組みの方向	具体的な方法・手段の提案
「遠州の小京都」を感じられる町並みや景観整備	<ul style="list-style-type: none"> ● 「遠州の小京都・森町」条例などの町並み保全のルールづくり ● 「遠州の小京都・森町」を代表する特色のある町並みの復元、小京都にふさわしい景観づくり
「遠州の小京都」ゆかりの地の整備	<ul style="list-style-type: none"> ● 小京都ゆかりの地・神社・寺院等への由緒書の整備、案内サインの設置 ● 蔵などを活用した「遠州の小京都・森町」観光の拠点整備 ● 古民家などを活用した「遠州の小京都・森町」宿泊施設等の観光機能の充実 ● 「遠州の小京都・森町案内人」（観光ガイド）の育成・配置 ● 天竜浜名湖鉄道や新東名高速道路を活用した「遠州の小京都・森町」関連の企画・キャンペーン等 ● 「遠州の小京都・森町」ファンクラブを通じた交流活動の推進
「遠州の小京都」のおもてなし体制の充実	
「遠州の小京都」を意識した商品でおもてなし	<ul style="list-style-type: none"> ● 森町の素材を活かし「遠州の小京都・森町」を意識した料理・お土産・お菓子などの開発 ● 「遠州の小京都・森町」観光コース・体験プログラムの商品化